

## 教養の新しい意義と形を創造(デザイン)する

教養デザイン研究科は、2008年度に「人間性とその適正な環境の探求」を教育研究の目標として開設した、新しい教養系の研究科です。研究分野として、「思想」、「文化」、「平和・環境」の3コースを設置しています。

教養デザイン研究科の特色は次の3点にあります。

第1には、複数の教員が学際的な研究指導にあたり、1つの専門領域だけに偏らない総合的な研究指導を行っています。第2には、大学院の国際化に対応して、

教育研究における国際的な連携を深め、海外へと開かれた研究科を目指しています。また、海外指定校制度を設け、本学の海外協定校から優秀な留学生を受け入れています。第3には、社会人に対して広く門戸を開放していることです。大学卒業後、それぞれの社会経験から得た学問的テーマの探求を希望する社会人を受け入れ、生涯学習社会に積極的に対応しています。

### 教養デザイン研究科の人材養成 その他教育研究上の目的

教養デザイン研究科は、21世紀において人類が直面している諸課題を総合的・学際的に考察し、公共的観点に立つて主体的に行動することのできる人材の養成を目指す。教育研究のテーマは「人間性とその適正な環境の探求」と、新時代にふさわしい「知の創造(デザイン)」である。博士前期課程では、科学技術の飛躍的発展によって生じた倫理的諸問題、グローバル化が進む現代世界における異文化理解、脱領域化状況の中での平和構築、自然環境との共生、これらの諸問題を総合的に考察し、解決へと導くことのできる高度な教養人の育成を目的とする。博士後期課程では、思想、文化、平和・環境の三つの領域において、自立した研究者の育成を目的としている。課程博士論文の作成に力点を置き、研究業績の蓄積を促進することによって、大学教員など研究職において活躍できる人材の育成を目的とする。

### 教養デザイン専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

教養デザイン専攻では、人類が直面する諸課題を包括的に探究するため、「思想」、「文化」及び「平和・環境」の3つの領域研究コースを設置している。文理を融合し、総合化された知の創造と現代社会における新たな倫理の探求を目指す。博士前期課程では、科学技術の著しい発展、グローバル化の到来など、激変する現代社会において、生涯学習をも視野に入れて、高度な教養をデザイン(創造)できる人材の養成を目指す。博士後期課程では、博士前期課程で身につけた知識を活かしながら、更に自立して研究活動を行える人材の養成を目指す。

## 入学者受入方針

## Admission Policy

### 【博士前期課程】

教養デザイン研究科博士前期課程は、科学技術の発展により惹き起こされた諸問題に対する倫理的判断、グローバル化が進む現代社会における異文化への理解、平和構築と自然環境との共生、これらの諸課題を総合的・学際的に考察し、公共的観点に立ち、問題解決にむかって主体的に行動することができる人材の養成を目的とします。このため、次のような資質と意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 出身学部にとらわれることなく、現代的な諸課題を総合的・学際的に考察し、問題解決にむけて主体的・積極的に行動しようとする意欲のある者。
- (2) 現代的な課題に関心を持ち、国際的な場で活躍を希望する者。
- (3) 自己の社会的経験に基づき、現代社会への学問的考察の意欲を持つ社会人。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験を実施し、入学者選抜を行いません。なお、社会人特別入試には50歳以上を対象とするシニア入学試験を含みます。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下のとおり求めます。

- (1) 哲学的考察力を身につけておくこと。
- (2) 異文化理解についての知識を修得しておくこと。
- (3) 平和と環境に関する基礎的な学力を修得しておくこと。

### 【博士後期課程】

教養デザイン研究科博士後期課程は、「思想」「文化」「平和・環境」の3研究領域において、優れた修士学位論文を作成したことを前提として、さらに専門性と複眼的視野とを深め、独創的な研究成果を発表することのできる研究者の養成を目的とします。このため、次のような資質と意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 修士学位論文をさらに高度な研究に深化させるアカデミック・スキル(外国語能力を含む)と研究計画を持つ者。
- (2) 現代的な課題に学際的視点から対応できる自立した研究者、または高度な教育研究活動を職業とすることを旨とする者。

以上の求める学生像に基づき、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行いません。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下のとおり求めます。

- (1) 高度な哲学的考察力を身につけておくこと。
- (2) 異文化理解や平和と環境に関して、高度な研究活動を遂行できる能力を修得しておくこと。



教養デザイン研究科 Web ページ

明治大学大学院 教養デザイン研究科

検索

事務取扱時間 (和泉第一校舎1F)

平日 ▶ 09:00~11:30 / 12:30~17:00 土曜日 ▶ 09:00~12:30 電話 ▶ 03-5300-1529 Mail ▶ [humanity@mics.meiji.ac.jp](mailto:humanity@mics.meiji.ac.jp)

※休業期間やイベント等により事務取扱時間は変更となる場合があります。

## 教育課程編成の考え方・特色

教養デザイン研究科は、「人間性とその適正な環境の探求」をテーマとして、哲学・倫理学などの人文科学、法学・政治学などの社会科学、環境科学・生命科学などの自然科学の各分野から専門家を集めて教員とし、カリキュラムを組みました。学生は、次の3つのコースのうち、1つを選択することになります。

### 「思想」領域研究コース

現代社会を読み解く鍵となる哲学・倫理・宗教について、グローバルかつアクトチュアルな視点から考察していきます。また、現代倫理や現代思想に関する多面的研究にも取り組んでいます。

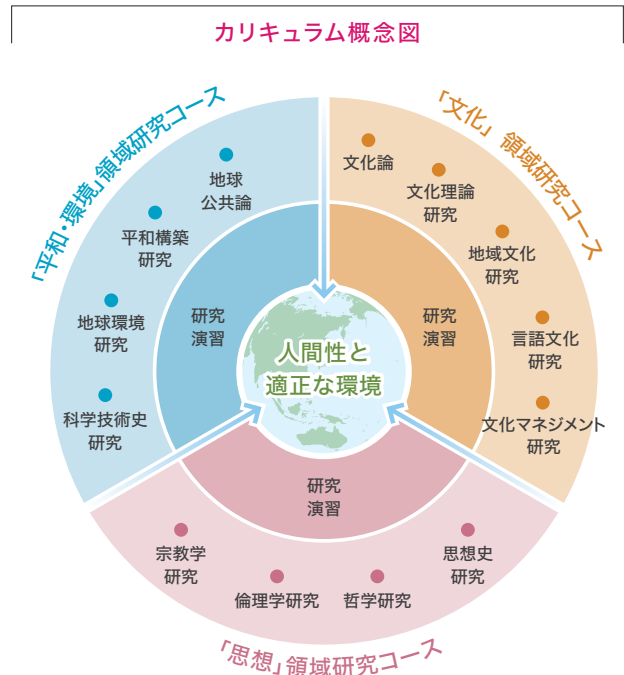
### 「文化」領域研究コース

人間性の発現として文化を捉え研究します。共生社会における異文化理解ということを中心に、マイノリティの文化にも焦点をあて、文化マネジメントといった分野にも取り組んでいます。

### 「平和・環境」領域研究コース

戦争・紛争と平和構築の問題、経済開発や貧困問題と平和の問題、また自然との共生の問題を中心に研究します。民族紛争、環境との関わり、科学技術と安全性の問題などを、幅広い視点で研究しています。

これらのコースは、他の領域研究コースの科目も取り込んだきわめて学際的な研究が行えるよう設計されています。



## 教育課程編成・実施方針

## Curriculum Policy

### 【博士前期課程】

教養デザイン研究科博士前期課程は、教育研究の総合的なテーマとして「人間性とその適正な環境の探求」を掲げています。「人間性」「環境」「行動倫理」がキーワードとなります。この3つのキーワードを研究対象として統合化し、整理したものが「思想」「文化」「平和・環境」の3つの領域研究コースです。学際的知識の修得と主体的に倫理的行動をとる人材を養成することを目的として、次のような方針に基づきカリキュラムを編成し、実施します。

- 1) 人文科学・社会科学・自然科学の分野にまたがる総合的・学際的知識を修得するための科目を配置します。
- 2) 専門的知識を深めると同時に、専門的知識の殻に閉じこもらない総合的・学際的知識を深め、複眼的視野を育成することを配慮します。
- 3) 指導教員と副指導教員による複数指導体制をとり、研究科全体で段階的に研究指導を行います。

### 【博士後期課程】

教養デザイン研究科博士後期課程の教育研究の総合的なテーマである「人間性とその適正な環境の探求」を行ないうる、個別学問分野における深い専門性と高い倫理性を持った研究者を養成するため、次のような方針に基づきカリキュラムを編成し、実施します。

- 1) 指導教員と副指導教員による複数指導体制のもと、専門分野における知識の高度化と研究の独創性を育成すると同時に、専門分野に関連する幅広い知識の修得とアカデミック・スキルの向上に配慮します。
- 2) 博士前期課程において培った総合的・学際的知識と複眼的視野の深化を目指します。
- 3) 学会誌等への投稿を促して、研究の対外的評価を求めていきます。

## 学位授与方針

## Diploma Policy

### 【博士前期課程】

教養デザイン研究科博士前期課程は、現在人類が直面している諸課題を総合的・学際的に考察し、公共的観点に立って主体的に行動することができる人材の養成を目指しています。そのため、所定の単位を修得したうえで、優れた学業成績を上げ、かつ、次に示す資質や能力を備えたと認められ、優れた修士学位論文を作成した学生に対して、修士(学術)の学位を授与します。

- 1) 総合的・学際的な視点に立ち、各自が専攻した研究分野のみならず、他研究領域に關しても、学士課程よりも深い教養や専門的知識を得ていること。
- 2) 現代的な課題に対して、地球公共的な視点から行動しうる能力を有していること。

### 【博士後期課程】

教養デザイン研究科博士後期課程では、人材養成の目的を踏まえ、所定の単位を修得したうえで、学業成績と研究業績を上げ、かつ、次に示す資質や能力を備えたと認められ、優れた博士学位論文を作成した学生に対して、博士(学術)の学位を授与します。

- 1) 総合的・学際的な視点に立ち、各自が専攻した研究領域のみならず、他研究領域との関連性を十分に認識して、高度な研究能力と豊かな学識により、独創的な研究成果を発表できること。
- 2) 自立した研究者として高い倫理性を持ち、地球公共的な視点に立って、現代社会のかかえる問題の解決への企画力と行動力を有していること。

# 教養デザイン研究科

## カリキュラム一覧

### ■ 博士前期課程

コース必修科目		
思想	思想領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	岩野 卓司
	思想領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	釜崎 太
	思想領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	澤井 和彦
	思想領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	西川 和孝
	思想史領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	本間 次彦
	思想史領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	井上 善幸
	思想史領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	伊藤 剣
	思想史領域研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	田中 ひかる
文化	文化理論研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	広沢 絵里子
	文化理論研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	鈴木 哲也
	文化理論研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	畑中 基紀
	文化理論研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	神田 正行
	文化理論研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	嶋田 直哉
	地域文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	虎岩 直子
	地域文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	斎藤 英治
	地域文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	池田 功
	地域文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	加藤 徹
	地域文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	山岸 智子
	地域文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	丸川 哲史
	地域文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	佐久間 寛
平和・環境	平和構築研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	鳥居 高
	平和構築研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	佐原 徹哉
	平和構築研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	廣部 泉
	平和構築研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	羽根 次郎
	地球環境研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	森永 由紀
	地球環境研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	浅賀 宏昭
地球環境研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	石山 徳子	
共通必修科目		
論文作成特論	田中 ひかる	

コース選択科目		
思想	思想領域研究特論Ⅰ(贈与論)	岩野 卓司
	思想領域研究特論Ⅱ(ジェンダー論の基礎)	高峰 修
	思想領域研究特論Ⅲ(人格の陶冶について)	中里 巧
	思想領域研究特論Ⅳ(現代社会とスポーツ)	釜崎 太
	思想領域研究特論Ⅴ(中国西南地域の歴史)	西川 和孝
	思想領域研究特論Ⅵ(スポーツ政策とビジネス)	澤井 和彦
	思想史領域研究特論Ⅰ(イマージュの解体学)	井上 善幸
	思想史領域研究特論Ⅱ(日本政治思想史(17~19世紀))	本間 次彦
	思想史領域研究特論Ⅲ(日本古代の社会と文学)	伊藤 剣
	思想史領域研究特論Ⅳ(キリスト教美術史)	瀧口 美香
	思想史領域研究特論Ⅴ(自己究明の諸相)	美濃部 仁
	思想史領域研究特論Ⅵ(近現代の社会変革思想)	田中 ひかる
文化	文化論研究特論Ⅰ(比較文化研究)	中村 和恵
	文化論研究特論Ⅱ(現代文化へのアプローチ)	山岸 智子
	文化論研究特論Ⅲ(フィールドワークと民族誌)	佐久間 寛
	文化論研究特論Ⅳ(映画論)	ネルン、リンジ R.
	文化理論研究特論Ⅰ(日本語表現論)	黒崎 典子
	文化理論研究特論Ⅱ(表象文化)	斎藤 英治
	文化理論研究特論Ⅲ(近代日本文学)	畑中 基紀
	文化理論研究特論Ⅳ(江戸小説と中国小説)	神田 正行
	文化理論研究特論Ⅴ(自伝理論)	広沢 絵里子
	地域文化研究特論Ⅰ(日本演劇史)	嶋田 直哉
	地域文化研究特論Ⅱ(中国語圏)	加藤 徹
	地域文化研究特論Ⅲ(英語圏)	虎岩 直子
	地域文化研究特論Ⅳ(ドイツ語圏)	佐藤 公紀
	地域文化研究特論Ⅴ(フランス語圏)	前田 更子
	地域文化研究特論Ⅵ(その他語圏)	薩摩 秀登
	言語文化研究特論Ⅰ(言語論と批評理論)	鈴木 哲也
	言語文化研究特論Ⅱ(鉄道と文学)	大楠 栄三
	言語文化研究特論Ⅲ(東アジア歴史文化比較論)	丸川 哲史
	文化マネジメント研究特論(芸能と国家・社会)	中村 雅之
	平和・環境	地球公共論研究特論Ⅰ(アジア太平洋地域の国際関係)
地球公共論研究特論Ⅱ(自然環境)		森永 由紀
平和構築研究特論Ⅰ(朝鮮半島と世界平和)		李 英美
平和構築研究特論Ⅱ(戦前の日本と世界)		廣部 泉
平和構築研究特論Ⅲ(人民民主論)		羽根 次郎
平和構築研究特論Ⅳ(経済発展論)		鳥居 高
平和構築研究特論Ⅴ(比較ジェノサイド論)		佐原 徹哉
地球環境研究特論Ⅰ(自然環境)		森永 由紀
地球環境研究特論Ⅱ(先端生命科学技術)		浅賀 宏昭
地球環境研究特論Ⅲ(環境と社会)		石山 徳子
科学技術史研究特論(科学と社会)	勝田 忠広	

※ 2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

### ■ 博士後期課程

コース必修科目		
思想	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	岩野 卓司
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	本間 次彦
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	井上 善幸
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	釜崎 太
文化	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	広沢 絵里子
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	虎岩 直子
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	斎藤 英治
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	鈴木 哲也
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	池田 功
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	山岸 智子
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	加藤 徹
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	丸川 哲史
平和・環境	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	鳥居 高
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	佐原 徹哉
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	羽根 次郎
	研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	廣部 泉
研究論文指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	石山 徳子	
共通選択科目		
現代教養総合研究Ⅰ	中村 和恵	
現代教養総合研究Ⅱ	丸川 哲史	

コース選択必修科目		
思想	思想領域特別研究	岩野 卓司
	思想史領域特別研究	美濃部 仁
	思想史領域特別研究	本間 次彦
文化	文化理論特別研究	薩摩 秀登
	文化理論特別研究	山岸 智子
	地域文化特別研究	加藤 徹
平和・環境	言語文化特別研究	鈴木 哲也
	平和構築特別研究	鳥居 高
	地球環境特別研究	森永 由紀
	地球環境特別研究	浅賀 宏昭
	科学技術史特別研究	勝田 忠広

※ 2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。



## 教養デザイン研究科の特色ある教育プログラム

### 映像資料活用による学際的アプローチの醸成プログラム

教養デザイン研究科では、2009年度より新しい教育プログラム「映像資料活用による学際的アプローチの醸成プログラム(略称:映像資料プログラム)」を実施しています。

異文化理解や環境問題あるいは紛争や貧困など平和に関する問題への理解を深めるため、ドキュメンタリーなど映像資料を活用するプログラムです。しかし、映像資料にも限界があるために、プログラムでは映像資料の上映と併せて監督やプロデューサーをお呼びし、作った側と見る側が映像を挟んで、実際に「キャッチボール」することによって、複眼的な思考や視点を醸成することを目的としています。

また教養デザイン研究科は学際的研究をその特徴としており、映像資料について、思想的側面から、文化的側面から、更には社会経済的側面から見ることによって、それぞれの視点を「交差」させていくおもしろさを体験することをねらいとしています。



### 「映像資料活用による学際的アプローチの醸成プログラム」一覧

テーマ・映像タイトル	講師	開催日
社会の闇を照らし出すために 一樋口健二写真展と映画上映	永田 浩三(武蔵大学教授)、樋口 健二(写真家)	2023年10月
僧侶からなる楽隊「坊主バンド」	藤岡 善信(浄土真宗本願寺派僧侶/「坊主バンド」リーダー)	2023年10月
みんな、版画家だった!? 一戦後版画運動の起源と成り立ち	〈資料展示のみ〉	2023年11月
トークセッション 映画「マイスマールランド」をめぐる	川和田 恵真(映画監督)、サヘル・ローズ(俳優)、 チョーラク・サッカス(東京外国語大学非常勤講師)	2022年7月
芸術人類学の扉を開く	石倉 敏明(秋田公立美術大学複合芸術研究科・美術学部准教授)	2022年11月
京都を舞台にした『嵐電』 プロデューサーが語る「映画の仕事の話をしよう」	西田 宣善(プロデューサー)	2022年11月
霸王別姫〜能楽と京劇 日中ユネスコ無形文化遺産の融合〜	張 春祥(一般財団法人日本京劇振興協会代表理事・新潮劇院主宰)	2023年2月
南方熊楠の見た大宇宙―粘菌の視座から―	唐澤 太輔(秋田公立美術大学准教授)	2021年10月
原点・閃え・村 谷川雁と石牟礼道子の九州的思考	森 元斎(長崎大学准教授)	2021年11月
『見えぬ島』	ケイコ・クルティ(映画監督)	2021年11月
篠原哲雄監督が語る映画『犬部!』	篠原 哲雄(映画監督)	2022年1月

### 特定課題講座(2023年度実施)

本研究科では、毎年、「特定課題講座」を開催しています。これは学内外の教員、院生、一般の方による知的・文化的交流をはかるものです。本研究科にはさまざまな専門分野の研究者が集まっているため、本講座ではその多様性を生かしながら、幾人もの専門家がひとつの主題について共同でアプローチしていきます。それにより参加者は、物事がいかに多面的な性格をもっており、それがお互いに密接に関連しているということを発見できるのです。

本研究科では2023年10月18日、特定課題講座(地域環境と人)として、『「難民」はいかにして、「難民」になるのか ― アフガニスタン、パレスチナの現場から』というタイトルを掲げた、シンポジウムを実施しました。企画が始まった2022年夏の時点では、さまざまな媒体で連日、ウクライナ避難民の動向が報じられていました。そのときにはあえて、西側諸国の論理に絡め取られてきた日本社会において見過ごされがちな、アフガニスタン、そしてパレスチナの現場に焦点を当てながら、難民問題について検討してみようということになったのです。

それから1年以上を経たシンポジウム当日、事態は大きく動いていました。アフガニスタン西部は大地震にみまわれ、ハマスによるイスラエルへの奇襲攻撃以降、パレスチナ情勢は混迷を極めていたのです。そのような状況下でわたしたちは、学外からご参加くださった3人の報告者から、それぞれの現場経験にもとづく貴重なお話を伺いました。

本研究科ではこうした企画を実施し、学内外の教員、大学院生、学部生、そして一般の方々と言葉を交わしながら、さまざまなことをクリティカルに考える学問の場を、これからも提供していきたいと考えています。

登壇者(報告者):アタイ、太田由香里、早尾貴紀

コーディネーター:石山徳子

## 院生・修士生からのメッセージ

### 博士前期課程

### Master's Program



#### 宮城 蓮

MIYAGI Ren

教養デザイン専攻  
「平和・環境」領域研究コース  
博士前期課程2年

### 多角的な視点や教養を 育成できる環境

私はトルコの民間軍事会社の活動について研究しています。大学の卒業論文では同社の活動実態について執筆しましたが、設立経緯やイデオロギーの背景に関してより深く研究をしてみたいと考え、進学を志望しました。教養デザイン研究科は「思想」「文化」「平和・環境」の3つのコースからなり、様々な研究領域を持つ先生方の授業を履修する事ができます。大学院の授業は少人数で行われ、先生や他の院生との濃密な議論を通じて、教養を深める事ができます。留学生も多く在籍しており、多様な問題関心を持つ院生の仲間たちとの交流を通じて、新たな知識や価値観を学ぶこともできます。自身の視野を広め、学際的に学ぶことができる環境。本研究科にはそれが用意されています。是非とも進学を考えてみてください。

#### Q 師事している教員は？

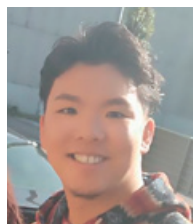
#### A 佐原 徹哉 教授

先生の研究分野は国際テロ研究や比較紛争論です。授業内では院生の興味、関心にあわせた文献を読み込み、不明点などに関しては先生が知識の補足をして下さります。研究報告では先生やメンバーからの指摘、アドバイスを頂く事で有意義に研究を進める事ができています。

教員情報 P.151

### 博士後期課程

### Doctoral Program



#### 高部 厳輝

TAKABE Genki

教養デザイン専攻  
「思想」領域研究コース  
博士後期課程2年

### スポーツと 真摯に向き合う

私たちは常に多くの社会問題を抱えて生活をしています。しかしその問題に向き合う余裕がないままに時間が過ぎていくこともあります。さらにはその問題を認識していない場合や、見て見ぬふりをしてしまう場面も多々あります。それはスポーツやサッカーの世界でも同じことです。私の研究対象は、社会問題を解決しようとするサッカークラブの取り組みです。日本のサッカークラブは社会問題の存在を認識し、その解決に向けて取り組みを始めています。それらの効果や仕組みを明らかにすることで次への課題と提案を行っています。

大学院では様々な視点でスポーツやサッカーが抱える問題を指摘してもらえます。それは研究者として教養を広げることのできる魅力的な空間となっていることに間違いありません。

#### Q 師事している教員は？

#### A 釜崎 太 教授

釜崎先生は身体教育論・ドイツスポーツの専門家でありながら、スポーツや教育に関する幅広い知識を持っています。それらを私たち院生に分かりやすく、さらにそれぞれの研究に寄せながら話をしてくださいませ。ゼミはそれらをもとに院生の中で議論を交わしながら、それぞれの研究に取り組むことができる空間です。

教員情報 P.149

### 博士前期課程

### Master's Program



#### 陳 郁文

CHEN Yuwen

教養デザイン専攻  
博士前期課程  
2024年3月修了

### 視野を 日常的に広げていく

今のグローバル社会に生きるために、どんな能力を持つべきかに興味を持ち、日本人大学生の異文化コミュニケーション能力について論文を執筆しました。文化コースに所属し、多文化共生社会における異文化理解を中心に、実際どんな困難や課題があるのかを検討し、それら乗り越えるための教育プログラムを構築することに力を入れました。

率直にいうと、研究生活はとても大変でした。研究の方向性や進め方や仮説の検証などで苦労したり悩んだりすることが沢山ありました。けれど、そのプロセスを楽しむことで、様々な視点や経験を得ることができました。本研究科がカバーする研究分野は幅広く、自分が関心を持つ分野で学術的な専門知識を勉強しながら存分に研究を進められると思います！

#### Q 師事していた教員は？

#### A 鈴木 哲也 教授

鈴木先生は言語社会学専攻で、言語と言語行動が人間、人間関係、社会にどう影響を与えているかを中心に研究をしています。積極的に学生たちとコミュニケーションを取ってくれるので、自由に発言でき、アットホームな環境です。研究でやってみたいことがあれば、先生はいつも全力でフォローと指導してくれるので、心強いです。

教員情報 P.150

### 博士後期課程

### Doctoral Program



#### 応 宜娉

YING Yiping

教養デザイン専攻  
博士後期課程  
2024年3月修了

### 多様な視点で 問い続けよう

この三年間、誰もが疫病の恐怖や混乱を経験してきたことでしょうか。部屋にいるしかなかった自分といかに向き合うのか、人間の健康に対して誰が責任を負うべきなのかという、AIには答え切れない問題が浮上し、そこでは文学、哲学、歴史など多様な視点を合わせての思考が必要となります。教養デザイン研究科では、幅広い授業を受けることができ、そうした多様な視点により議論を深めることができます。一つの問いを多様な視点から照らしたならば、新たな知見が出てくるはず。私自身の研究テーマは、中国における日本文学者石川啄木の受容ですが、そうした受容の問題を思想史、交流史からアプローチしたとき、日本と中国の思想の共振の歴史も見えてきます。皆さん、この学び場で研究してみませんか。

#### Q 師事していた教員は？

#### A 池田 功 教授

池田先生の専門は、日本文学と文化ですが、特に啄木を中心とする日本近代文学に造詣が深いです。コロナ禍において、先生が行っている「感染症文学」研究の魅力を改めて感じています。先生はドイツ、韓国、インドでの教育と研究経験を持っており、演習では、質問や意見を自由に行うことができる雰囲気があります。

教員情報 P.150

教員一覧

1 「思想」領域研究コース

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**岩野 卓司**  
IWANO Takuji

Ph.D. 教授

研究分野 **哲学/思想史/日本思想/暴力の系譜学/言語と政治**

【最終学歴】東京大学大学院/バリ第4大学大学院 【担当授業科目】思想領域研究演習/思想領域研究特論I/研究論文指導/思想領域特別研究 【研究テーマ】思想史における暴力の解釈/共同体と共同性の研究/哲学・宗教・人類学における贈与論/日本思想史 【主な著書・論文】『贈与の哲学—ジャン＝リュック・マリオンの思想』(明治大学出版・2014年)/『共にあることの哲学』(書肆心水・2016年)/『共にあることの哲学と現実』(書肆心水・2017年)/『贈与論』(青土社・2019年)/『はじまりのバタイユ』(法政大学出版・2023年)/『贈与をめぐる冒険』(ヘウレーカ・2023年)

**釜崎 太**  
KAMASAKI Futoshi

博士(教育学) 教授

研究分野 **身体教育論/ドイツスポーツ研究**

【最終学歴】広島大学大学院 【担当授業科目】思想領域研究演習/思想領域研究特論IV/研究論文指導 【研究テーマ】市民社会とプロスポーツ及びスポーツクラブの関係/メディア・身体を中心としたスポーツ研究 【主な著書・論文】『ドイツの市民社会とブンデスリーガ—共的セクターとしての非営利法人の機能—』(スポーツ社会学研究, 29-2号, 2021年)/『ギラヴァンツ北九州の社会貢献活動に見る共的セクターの役割と課題』(年報体育社会学, 3号, 2022年)

**澤井 和彦**  
SAWAI Kazuhiko

博士(教育学) 准教授

研究分野 **スポーツの制度、トップスポーツのマネジメント、企業スポーツ、スポーツの社会的インパクト、アスリートのキャリアアトラクション、eスポーツ、スポーツ共創**

【最終学歴】東京大学大学院教育学研究科博士課程 【担当授業科目】思想領域研究演習、思想領域研究特論VI 【研究テーマ】スポーツの制度、トップスポーツのマネジメント、企業スポーツ、大学スポーツ、スポーツの社会的インパクト、アスリートのキャリアアトラクション、eスポーツ、スポーツ共創 【主な著書・論文】『eスポーツが“スポーツ”に問うもの』体育の科学, 69(1), 杏林書院, 2019/『スポーツリーグのマネジメント』(「スポーツマネジメント」大修館書店, 2015/『日本型企業スポーツの制度と制度移行の課題に関する研究』スポーツ産業学, 21(2), 2011)

**西川 和孝**  
NISHIKAWA Kazutaka

博士(史学) 准教授

研究分野 **中国西南地域の社会経済史**

【最終学歴】中央大学大学院 【担当授業科目】思想領域研究特論V 【研究テーマ】雲南省における漢族移民の歴史 【主な著書・論文】『雲南中華世界の膨張—プーアル茶と鉱山開発にみる移住戦略』、西川和孝(単著)、慶友社、2015年4月/『雲南産アヘンの輸出と歴史的意義について—1912年から1935年まで—』西川和孝 明治大学教養論集(明治大学教養論集刊行会) 559巻 pp.45-79, 2021年12月

**井上 善幸**  
INOUE Yoshiyuki

教授

研究分野 **ヨーロッパ文学と思想/視覚芸術/サミュエル・ベケット/西洋精神史**

【最終学歴】関西大学大学院 【担当授業科目】思想史領域研究演習/思想史領域研究特論I 【研究テーマ】モダニズム文学/ヨーロッパ精神史 【主な著書・論文】[共著]『サミュエル・ベケットと批評の遠近法』(未知谷・2016年)/Beckett and Animals. Cambridge University Press, 2013. / [単著]『ポルヘスの記憶術』『明治大学教養論集』通巻562号. Sept., 2022, 53-81. / Beckett's Mental Cartography in *Le Dépeupleur and Company*. *Samuel Beckett Today / Aujourd'hui* 29. Brill, 2017.

**本間 次彦**  
HONMA Tsughiko

教授

研究分野 **中国近代思想**

【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】思想史領域研究演習/思想史領域研究特論II/研究論文指導 【研究テーマ】帝政後期中国の思想状況に対する多角的分析(文学・宗教なども含む) 【主な著書・論文】『コスモロギア—天・化・時』『人ならぬもの—鬼・禽獣・石』(「シリーズ・キーワードで読む中国古典」①②・共著・法政大学出版局・2015年)/B. A. エルマン『哲学から文献学へ—後期帝政中国における社会と知の変動』(共訳・知泉書館・2014年)

**田中 ひかる**  
TANAKA Hikaru

博士(社会学) 教授

研究分野 **社会思想史/社会運動史/ドイツ近現代史/アナキズム史/移民史**

【最終学歴】一橋大学大学院 【担当授業科目】思想史領域研究演習/思想史領域研究特論VI 【研究テーマ】アナキズム史、国境を越える人々が作り出す思想と社会運動 【主な著書・論文】田中ひかる編著『社会運動のグローバルな拡散—創造・実践される思想と運動』(論創社、2023年)/田中ひかる編『アナキズムを読む <自由>を生かすためのブックガイド』皓星社、2021年/田中ひかる編著『社会運動のグローバル・ヒストリー—共鳴する人と思想』ミネルヴァ書房、2018年

**伊藤 剣**  
ITO Ken

博士(文学) 准教授

研究分野 **日本古典文学**

【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】思想史領域研究演習/思想史領域研究特論III 【研究テーマ】文学研究の立場から見た日本古代の神話の研究 【主な著書・論文】『日本上代の神話伝承』(新典社・2010年)/『出雲国風土記の神話と思想』(新典社・2023年)/『上代文献における杵築大社関連記事をめぐる』(『国文学研究』198・2023年)

**瀧口 美香**  
TAKIGUCHI Mika

Ph.D. 准教授

研究分野 **ビザンティン美術史/キリスト教図像学**

【最終学歴】ロンドン大学大学院 【担当授業科目】思想史領域研究特論IV 【研究テーマ】ビザンティン写本挿絵/初期キリスト教聖堂舗床モザイク/ビザンティン聖堂フレスコ壁画 【主な著書・論文】『キリスト教美術史—東方正教会とカトリックの二大潮流』(中央公論新社・2022年)/『初期キリスト教・ビザンティン図像学研究』(創元社・2018年)/『ビザンティン四福音書写本挿絵の研究』(創元社・2012年)/『The Mosaic Decoration of the Monreale Cathedral, L. Cleaver, et al., eds., *Illuminating the Middle Ages* (Brill, 2020).

2 「文化」領域研究コース

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**広沢 絵里子**  
HIOSAWA Eriko

教授

研究分野 **ドイツ文学/自伝研究**

【最終学歴】立教大学大学院 【担当授業科目】文化理論研究演習/文化理論研究特論V/研究論文指導 【研究テーマ】精神分析と自伝/ドイツ語圏の文化 【主な著書・論文】ゲルマニスティネンの会・光未紀子他編『ドイツ文化を担った女性たち—その活躍の軌跡』(共著・鳥影社・2008年)/広沢絵里子・M. マンテラルツ編『Auto-/Biographie: Erzähltes Selbst, erinnerte Bilder』(共編著・日本独文学会・2010年)



# 教養デザイン研究科

鈴木 哲也  
SUZUKI Tetsuya

教授 研究分野 言語社会学



【最終学歴】英国リーズ大学大学院 【担当授業科目】文化理論研究演習/言語文化研究特論Ⅰ/研究論文指導/言語文化特別研究 【研究テーマ】コミュニケーション・テクノロジーの発達と社会構造の変化の相関性 【主な著書・論文】『ケルト口承文化の水脈』(共著・中央大学出版部・2006年)

嶋田 直哉  
SHIMADA Naoya

博士(文学) 教授 研究分野 日本近代文学/日本現代演劇研究



【最終学歴】立教大学大学院 【担当授業科目】文化理論研究演習/地域文化研究特論 【研究テーマ】永井荷風研究/日本現代演劇研究 【主な著書・論文】『荷風と玉の井—「ぬけられます」の修辞学』(論創社、2019年5月)/『輻輳化する風景—永井荷風の文体戦略(「明治大学教養論集」第532号、2018年3月)/『記憶の遠近法—井上ひさし『父と暮せば』を観ること』(「日本近代文学」第94集、2016年5月)/『永井荷風の「復活」—「つゆのあとさき」を読む』(隔月間「文学」第10巻第2号、2009年3月)

畑中 基紀  
HATANAKA Motoki

教授 研究分野 近代日本文学・表現論



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】文化理論研究演習/文化理論研究特論Ⅲ 【研究テーマ】物語芸術におけるリアリティの構造 【主な著書・論文】『日日平安』から『日々平安』へ—原作小説からシナリオへの改変過程—(「明治大学教養論集」)/『縁談の文体論—「細雪」における(うわさ)による縁談のストーリー形成について』(「文体論研究」)

神田 正行  
KANDA Masayuki

博士(文学) 准教授 研究分野 日本近世文学(散文)



【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】文化理論研究演習/文化理論研究特論 【研究テーマ】日本における中国通俗小説の受容 【主な著書・論文】『馬琴と書物—伝奇世界の基底—』(八木書店・2011年)/『馬琴書翰集成』全7冊(八木書店・2002~04年)/『曲亭馬琴『漢楚賽擬選軍談』翻刻』(明治大学教養論集539~561・2019~22年)/『「長祿江戸図」と馬琴の地理考証』(「好古趣味の歴史」文学通信・2020年)

虎岩 直子  
TORAIWA Naoko

Ph.D 教授 研究分野 現代アイルランド文学/イギリス諸島とカナダの文化



【最終学歴】東京大学大学院/Sussex University 【担当授業科目】地域文化研究演習/研究論文指導 【研究テーマ】現代アイルランド社会と文学/トランスレーション論/パブリック・アート 【主な著書・論文】『近・現代的想像力に見られるアイルランド気質』(共著・浜水社)/『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』(共著・世界思想社)

斎藤 英治  
SAITO Eiji

教授 研究分野 現代アメリカ文学およびアメリカ映画史



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】地域文化研究演習/文化理論研究特論Ⅱ/研究論文指導 【研究テーマ】D. W. グリフィスの映画から現代アメリカ文学まで、アメリカ文化の魅力と特質を研究 【主な著書・論文】The Sound of Silent Films : Griffith's Innovations on Sound in Home, Sweet Home / 『風』とその「ハッピーエンド」に関する覚え書き』(「明治大学教養論集第445号」・2009年)

池田 功  
IKEDA Isao

博士(文学) 教授 研究分野 日本近代における文学と文化及び社会



【最終学歴】明治大学大学院 【担当授業科目】地域文化研究演習/地域文化研究特論Ⅰ/研究論文指導 【研究テーマ】日本近代の文芸研究/病と人間の文化研究/死生観の研究/石川啄木研究 【主な著書・論文】『啄木—新しき明日の考察』(新日本出版社・2012年)/『啄木日記を読む』(新日本出版社・2011年)/『新版 こころの病の文化史』(おうふう・2008年)/『石川啄木—その散文と思想』(世界思想社・2008年)/『石川啄木—国際性への視座』(おうふう・2006年)

加藤 徹  
KATO Toru

教授 研究分野 中国伝統演劇(京劇)/中国文化



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】地域文化研究演習/地域文化研究特論Ⅱ/研究論文指導/地域文化特別研究 【研究テーマ】中国の文化を、日本社会との比較という視点もふまえて研究 【主な著書・論文】『京劇』(中公叢書・2001年)/『貝と羊の中国人』(新潮新書・2006年)

山岸 智子  
YAMAGISHI Tomoko

博士(学術) 教授 研究分野 イラン地域研究/文化論



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】文化論研究特論/地域文化研究演習 【研究テーマ】イスラームとグローバル化の諸問題、イメージとイデオロギーの関連性、など 【主な著書・論文】『Can Japan embrace a Muslim Public? A study on responses to newcomer Muslims,』K.Ohtsuka & D. F. Eickelman eds., Crossing Boundaries: Gender, the Public, and the Private in Contemporary Muslim Societies, Tokyo, ILCAA, 2008. /『現代イランの社会と政治』2018年

丸川 哲史  
MARUKAWA Tetsushi

博士(学術) 教授 研究分野 東アジア思想・文化論



【最終学歴】一橋大学大学院 【担当授業科目】地域文化研究演習/言語文化研究特論Ⅲ/研究論文指導 【研究テーマ】20世紀文化と知識人 【主な著書・論文】『台湾における脱植民地化と祖国化から』(明石書店・2007年)/『思想課題としての現代中国』(平凡社・2013年)/『魯迅入門』(インスク립ト・2014年)/『冷戦文化論(改訂版)』(論創社・2020年)<以下翻訳書>『温鉄軍』中国にとって農業・農村問題とは何か』(作品社・2010年)/『汪暉』世界史のなかの東アジア—台湾・朝鮮・日本』(青土社・2015年)/『羅永生』誰も知らない香港現代思想史』(共和国・2015年)

前田 更子  
MAEDA Nobuko

博士(史学) 教授 研究分野 フランス近現代史、地域研究(フランス)



【最終学歴】東京立大学大学院 【担当授業科目】地域文化研究特論Ⅴ 【研究テーマ】近代フランスの教育とカトリシズムに関する社会史的研究 【主な著書・論文】『私立学校からみる近代フランス—19世紀リヨンのエリート教育』(単著・昭和堂・2009年)/『カトリシズムと生活世界—信仰の近代ヨーロッパ史』(共編著・勁草書房・2023年)/『世界史のなかの女性たち』(共著・勉誠出版・2015年)/『近現代ヨーロッパの歴史—人の移動から見る』(共著・放送大学教育振興会・2022年)

佐久間 寛  
SAKUMA Yutaka

博士(学術) 准教授 研究分野 文化人類学/アフリカ地域研究



【最終学歴】東京外国語大学大学院 【担当授業科目】地域文化研究演習/文化論研究特論Ⅲ 【研究テーマ】負債をめぐる民族誌学的研究、フランス語圏アフリカの文化研究 【主な著書・論文】『Index de Présence Africaine par auteurs (1947-2016), Présence Africaine, 2021. /『ガーロコイル: ニジェル西部農村社会をめぐるモラルと叛乱の民族誌』平凡社・2013年

**中村 和恵**  
NAKAMURA Kazue

教授 研究分野 **比較文学・比較文化／英語圏文学**

**【最終学歴】** 東京大学大学院 **【担当授業科目】** 文化論研究特論I **【研究テーマ】** 旧英領植民地を中心とする非西洋圏の文化・文学の比較研究、少数者の目に関心がある **【主な著書・論文】** 『つきまとう故郷—トランス・ナショナルな英語文学とネイションの問題』(『岩波講座文学13』・2003年) / 『帝国を飼いならせ』(『早稲田文学』1996-2000年) / 『世界中のアフリカへ行く』(共著・編集者・岩波書店・2009年) / 『地上の飯』(平凡社・2012年) / 『日本語に生まれて』(岩波書店・2013年)



**佐原 徹哉**  
SAHARA Tetsuya

博士(文学) 教授 研究分野 **東欧現代史・中東現代史・紛争研究**

**【最終学歴】** 東京大学大学院 **【担当授業科目】** 平和構築研究演習 / 研究論文指導 **【研究テーマ】** 民族問題、テロリズム、難民問題、紛争研究 **【主な著書・論文】** 『ボスニア内戦—グローバル化とカオスの民族化』(有志舎・2008年) / 『War and Diplomacy』(共著・Salt Lake City・2012年) / 『War and Nationalism』(共著・Salt Lake City・2013年) / 『What happened in Adana on April 1909?』(Istanbul・2013年) / 『中東民族問題の起源』(白水社・2014年)



**ネルソン, リンジー R.**  
NELSON Lindsay R.

博士 准教授 研究分野 **現代日本映画、日本ポップカルチャー**

**【最終学歴】** The University of Southern California **【担当授業科目】** 文化論研究特論(映画論) **【研究テーマ】** 現代日本ホラー映画とニューメディア、日本映画と「家」の概念、動画論文 **【主な著書・論文】** 『Circulating Fear: Japanese Horror, Fractured Realities, and New Media』(Lexington Books, 2021) / 『"That's not very manly": Debating Japanese Masculinities on Terrace House』(Japanese Studies, 2021) / 『Choosing Illusion: Mediated Reality and the Spectacle of the Idol in Kōji Shiraishi's Shirome』(Journal of Japanese and Korean Cinema, 2018)



**廣部 泉**  
HIROBE Izumi

Ph.D. 教授 研究分野 **日米関係史／地域研究(アメリカ合衆国)**

**【最終学歴】** ハーバード大学大学院 **【担当授業科目】** 平和構築研究演習 / 平和構築研究特論II **【研究テーマ】** 日米中関係、グローバル化、米国史、日本近現代史 **【主な著書・論文】** 『International Society in the Early Twentieth Century Asia-Pacific』(共著・Routledge, 2021年) / 『Japanese Pride, American Prejudice』(単著・Stanford University Press・2001年) / 『グルー—真の日本の友』(単著・ミネルヴァ書房・2011年) / 『人種戦争という寓話』(単著・名古屋大学出版会・2017年) / 『黄禍論 百年の系譜』(講談社選書メチエ、2020年) / 『大正史講義』(共著・ちくま新書・2021年)



**佐藤 公紀**  
SATO Kiminori

博士(学術) 専任講師 研究分野 **ドイツ・ヨーロッパ近現代史／現代ドイツ政治**

**【最終学歴】** 東京大学大学院 **【担当授業科目】** 地域文化研究特論IV(ドイツ語圏) **【研究テーマ】** 19世紀後半～20世紀前半のドイツにおける刑罰制度・犯罪生物学・釈放者扶助の歴史的展開 / 現代ドイツの右翼ポピュリズム **【主な著書・論文】** 『ドイツ文化事典』(共著、丸善出版、2020年) / 『ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ』(共著、勉誠出版、2020年) / 『フォルカー・グアイス「エリートたちの反撃：ドイツ新右翼の誕生と再生」』(翻訳、新泉社、2020年)



**羽根 次郎**  
HANE Jiro

博士(学術) 教授 研究分野 **中国近現代史／現代中国論**

**【最終学歴】** 一橋大学大学院 **【担当授業科目】** 平和構築研究演習 / 平和構築研究特論III **【研究テーマ】** 中国概念の史的研究 / 中国共産党史 / 清末台湾史 **【主な著書・論文】** 『物的中国論：歴史と物質から見る「大国」』(単著・青土社・2020年) / 『(东亚之外的中国：关于认同政治的若干问题)』(区域2016年第2辑) / 『啓蒙思想期以降のヨーロッパにおける南台湾記述と「南東台湾」の発見について』(日本台湾学会報12・2010年)



**薩摩 秀登**  
SATSUMA Hideto

博士(社会学) 教授 研究分野 **西洋中・近世史／東欧史**

**【最終学歴】** 一橋大学大学院 **【担当授業科目】** 地域文化研究特論VI / 文化理論特別研究 **【研究テーマ】** 東欧の中・近世における政治および社会構造と文化 **【主な著書・論文】** 『ブラハの異端者たち 中世チェコのフス派に見る宗教改革』(現代書館・1998年) / 『物語チェコの歴史 一森と高原と古城の国』(中公新書・2006年) / 『辺境のダイナミズム』(共著・岩波書店・2009年) / 『図説チェコとスロヴァキアの歴史』(河出書房新社・2021年)



**森永 由紀**  
MORINAGA Yuki

博士(理学) 教授 研究分野 **気候学・環境科学**

**【最終学歴】** 筑波大学大学院 **【担当授業科目】** 地球公共論研究特論II / 地球環境研究特論I **【研究テーマ】** モンゴル国のアイラグ(発酵馬乳)の気候学的研究 **【主な著書・論文】** 『Winter snow anomaly and atmospheric circulation in Mongolia: International Journal of Climatology. 23, 13, p.1627-1636, 2003. / Who is making airag (fermented mare's milk) in Mongolian households? Nomadic Peoples, 19, 7-29, 2015, (共著) / 『モンゴル国の馬乳酒』(科学・89巻・9号・817-823・2019年)



**3 「平和・環境」領域研究コース**

※ 2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

**鳥居 高**  
TORII Takashi

教授 研究分野 **多民族国家における政治・経済システムの研究**

**【最終学歴】** 中央大学 **【担当授業科目】** 平和構築研究演習 / 地球公共論研究特論I **【研究テーマ】** 多民族国家の社会安定装置について、市民権、政党、選挙、経済テクノロジーなどに焦点を当てている **【主な著書・論文】** 『東アジアの社会大変動』(共著・名古屋大学出版会・2017年) / 『マハティール政権下のマレーシア』(編著・アジア経済研究所・2006年) / 『アジア中間層の生成と特質』(共編著・アジア経済研究所・2002年)



**浅賀 宏昭**  
ASAGA Hiroaki

理学博士 教授 研究分野 **学際生命科学 ならびに生命科学教育**

**【最終学歴】** 東京立大学大学院 **【担当授業科目】** 地球環境研究演習 / 地球環境研究特論II / 地球環境特別研究 **【研究テーマ】** 『動物細胞の機能に関する研究』および『バイオテクノロジーの社会実装に関する研究』ならびに『生命科学実験教材の研究』 **【主な著書・論文】** 『知っておきたい最新科学の基本用語』(技術評論社・2009年) / 『Abnormal Accumulation of Citrullinated Proteins Catalyzed by Peptidylarginine Deiminase in Hippocampal Extracts from Patients with Alzheimer's Disease.』, J. Neurosci. Res. 80, pp.120-128, 2005.



**石山 徳子**  
ISHIYAMA Noriko

Ph.D. 教授 研究分野 **地理学／地域研究(アメリカ合衆国)**

**【最終学歴】** ラトガース大学大学院 **【担当授業科目】** 地球環境研究演習 / 地球環境研究特論III **【研究テーマ】** 環境正義問題。特に、核開発と植民地主義、経済格差、人種差別との関係について **【主な著書・論文】** 『米国先住民と核廃棄物—環境正義をめぐる闘争』(単著・明石書店・2004年) / 『震災・核災害の時代と歴史学』(歴史学研究会編・2012年) / 『地域環境の地理学』(2012年) / 『「ヘイト」の時代のアメリカ 人種・民族・国籍を考える』(共著・彩流社・2017年) / 『「犠牲区域」のアメリカ 核開発と先住民』(単著・岩波書店・2020年)





# 教養デザイン研究科

上村 威

UEMURA Takeshi

博士  
(国際関係)  
准教授

研究  
分野

国際関係論、中国研究、中国外交



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】地球公共論  
研究特論I 【研究テーマ】国際関係理論の視点から、中国を  
はじめとする国家の対外関係について考察する 【主な著書・  
論文】(2015) Understanding Chinese Foreign Relations,  
International Studies Perspectives 16 (3). / (2015)『文  
化と国家アイデンティティの構築』勁草書房

勝田 忠広

KATSUTA Tadahiro

博士(工学)  
教授

研究  
分野

使用済核燃料管理/  
プルトニウム処分問題



【最終学歴】広島大学大学院 【担当授業科目】科学技術史研究  
特論 【研究テーマ】原子力・核燃料サイクル政策/原子力安全  
規制 【主な著書・論文】The Rokkasho test: Has Japan  
learned the lessons of Fukushima?, Bulletin of the  
Atomic Scientists, Vol.72 No.3, pp.180-184. April 2016  
/ 福島事故5年後の原子力安全規制:現状と将来の課題, 科学  
(岩波書店)第86巻7号 pp.726-731. 2016年7月 / Japan's  
spent fuel and plutonium management challenge, Energy  
Policy, Vol.39 Issue 11 pp.6827-6841. November 2011.

## 2021~2023年度 修士論文テーマ

### 「思想」領域研究コース

- ▶ 中華民国初期の北京とある旧旗人作家の日常  
— 蔡友梅の描いた北京—
- ▶ ドイツにおける教員養成改革の動向と反省的実践家  
— カッセル大学 PRONET プロジェクトにおける  
教科スポーツの取り組みを中心に—
- ▶ 能登半島珠州市と海南島儋州市における  
伝統的な塩づくり文化の現状実態に関する研究  
— 観光資源とした無形文化遺産の保護に関する日中比較—
- ▶ 誰が人を救済するか  
— 『老子想爾注』における「救済」の問題—
- ▶ 川崎フロンターレの社会貢献活動に見る社会的連帯経済  
— 日本のプロサッカークラブと公共性—
- ▶ 現代日本の仏教において  
社会倫理的な要素が形成された要因に関する考察  
— 仏教信仰における個人の内面に焦点をあて—
- ▶ Jリーグの地域・社会貢献活動に関する研究  
— バットナムのコミュニティ論の視点から—
- ▶ 戸畑「提灯山笠」に見る近代日本の地方都市と身体  
— 祭礼・民衆・国家—

### 「文化」領域研究コース

- ▶ ATTRACTIONS OF BECKY AND DENG RONG  
FROM A POST-FEMINIST PERSPECTIVE
- ▶ 「黄蘗の詩集『瑞枝』の考察」
- ▶ 森鷗外における死生観の考察  
— 安楽死・殉死・戦争文学を中心に—
- ▶ 映画からみる人権意識  
— 日本とアメリカにおける死刑制度をめぐって—
- ▶ 日における伝統的話芸の現状と課題  
— 落語と相声の比較研究—
- ▶ マイクロブログを介したコミュニケーションの日中比較  
— TwitterとWeiboにおけるポライトネス表現を中心に—
- ▶ フランス本国と植民地間の食文化形成
- ▶ 「中間地帯」概念の理論的分析 — 一つの革命理論として—
- ▶ 言語行動からみる中国のゲイ・アイデンティティ
- ▶ 日中新聞の比較 — 2001年の教科書問題をめぐって分析—
- ▶ 東松照明における眼差しにとつての  
戦後・沖繩・アメリカナイゼーション
- ▶ 『わがユダヤ・ドイツ・ポーランド マルセル・ライヒラニツ  
キ自伝』におけるホロコーストとの向き合い方
- ▶ 下北沢を中心とした盛り場の変容についての研究
- ▶ 中国現代史に対する芸術的省察 — 『活きる』を中心に—
- ▶ 2.5次元作品におけるデータベース消費  
— 『刀剣乱舞』シリーズを例として—
- ▶ イギリス領香港政府の教育政策  
— 1950~70年代の教育改革・言語政策を中心に—
- ▶ 中日米ドラマにおけるビジネス場面から見る謝罪発話表現  
— ポライトネス理論と比較文化論をめぐって—
- ▶ 日本の化け猫像の変遷をめぐる考察  
— ヴィジュアル作品を中心に—
- ▶ 日本人留学生の異文化コミュニケーション能力に関する考察
- ▶ 農村文学における外省人の「郷愁」というトラウマについて
- ▶ 周兄弟における「民間」と「伝統」  
— 日本からの触発と独自の文脈—
- ▶ 映像作家蔡明亮長編作品における「移動」について
- ▶ 華人映画にかかわるイデオロギー現象の分析  
— 2018年金馬獎事件を手がかりとして—

### 「平和・環境」領域研究コース

- ▶ 尾崎秀実の思想的前史  
— 上海時代での人間関係を中心に—
- ▶ 南シナ海を巡る米中対立とフィリピン、ベトナム
- ▶ 中ソ関係とソ連の対新疆援助1945-1954  
— ソ連の対新疆石油産業援助を例として—
- ▶ 山形国際ドキュメンタリー映画祭の創立までの思想継  
承の道筋 — 集団性と小川紳介—
- ▶ 植民地時代の教育政策から見る香港の公民教育  
— 香港人アイデンティティをめぐって—
- ▶ 中国の対日外交政策決定に関する研究  
— 日ソ・シベリア共同開発をめぐる対ソ戦略—
- ▶ 中国共産党の「革命」理論と実践: 1935-1950
- ▶ Going Beyond Japanese Settler Colonialism:  
Japanese American Women's Activism in the  
Land-Use Conflict over Mauna a Wākea, Hawaii
- ▶ 中国共産党の衛生事業とその社会的契機  
— 革命根拠地時期から1950年代前半の歴史を中心—
- ▶ 日本のすしに関する研究 — にぎりすしの栄養と機能性  
ならびにマグロとサーモンのフードシステムを中心に—

## 近年の博士学位授与

### 課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(学術)	行動する知識人・橋樑 — 大正生命主義と中国経験—	2019年度
博士(学術)	谷川雁の反定型音響 — 「工作者」のダイナミズムについて—	2020年度
博士(学術)	アンヌ・エペールのケベック — 視線の舞台から風景へ—	2020年度
博士(学術)	日本と中国のテレビCMの広告表現における共通要素の研究 — 比較文化論の観点から—	2021年度
博士(学術)	日本語オノマトペの仏語訳研究 — 宮澤賢治童話を資料として—	2021年度
博士(学術)	石川啄木の受容 — 日本統治期の台湾を例に	2023年度
博士(学術)	中国近代文学における石川啄木の受容	2023年度